

# 新年の ごあいさつ

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、私たちが今まで経験したことのない「新型コロナウイルス」の感染拡大に困惑させられた一年ではなかったかと思えます。世界中で感染が拡大し、町内でも飲食業や農畜産業をはじめ、さまざまな産業で売り上げが低下するなどの経済的な影響がありました。

一次産業におきましては、コロナ禍の影響で、養殖魚の出荷が抑制されたり、新茶の取引に影響が出たりするともに、一方で、サツマイモの基腐病が拡大するなど、厳しい一年ではなかったかと思えます。

商工業におきましては、非常事態宣言が発令され、不要不急の外出が抑制されるなど、飲食店や小売り店舗など、厳し

い経営を強いられた一年ではなかったかと思えます。

町でも、テイクアウトの取り組みを推進するとともに、職員のテレワーク制度を導入するなど、新たな試みにチャレンジした一年でもありました。

また、国が期待しておりました、東京オリンピック・パラリンピックが延期になり、そして、本町も万全の準備で進めてきました「燃ゆる感動かごしま国体」自転車ロードレースも延期になりました。仕方のないこととはいえ、これまで真摯に準備に取り組んでいた関係者の方々に申し訳ない気持ちでいっぱいでもあります。

7月の豪雨では、国道269号線城ヶ崎付近で、大規模な土砂崩れが発生し、通行車両が巻き込まれましたが、海上保安庁・消防・警察の連携と、迅速な救出

で、尊い命が救われました。また、9月に接近した台風10号については、特別警報級という前触れもあり、578名という今までにない多数の方々が避難されました。コロナ禍での避難であり、今後の避難所運営の在り方など、いくつかの検討すべき課題があることを改めて認識したところであります。

花瀬公園まつりや夏まつり、文化祭、秋まつりなどイベントのほとんどを余儀なく中止し、また、観光振興計画、農業振興計画など、外部委託による業務の一部も執行できない状態が発生しました。

以上、述べて来ましたが、昨年は、極めて厳しい年ではありましたが、大きな災害がなかったことが唯一の救いではなかったかと思えます。

さて、今年の干支は丑です。何事もじっくり考えて、努力を惜しまず、コツコツと確実に前進する年にしていきたいと思えます。

少子高齢化や空き家対策、医師会立病院の移設建替えなど、山積する課題について対策を講じ、確実に前進できるように努めてまいります。

今後は、ウィズコロナ（コロナとの共存）、アフターコロナ（コロナ禍をコントロールできている状況）に対応した、

新たな生活様式が求められ、働き方や産業構造も変化していくものと思われまます。迅速に対応するために、令和3年度の予算におきましては、引き続き、住民サービスや産業振興に支障をきたさないよう、取り組んでまいりたいと思えます。今年一年が、希望に満ちた明るい年になりますことをご祈念申し上げます。

## 令和2年度の主な取り組み

- ・子育て世代包括支援センターの開設
- ・錦江町地域強靱化計画策定（国土強靱化市町村計画）
- ・空き家を活用したゲストハウスオープン
- ・持続可能な開発目標「SDGs」教育の推進
- ・情報化教育の推進
- （GIGAスクール、電子黒板導入など）
- ・池田「柴まつり」記録保存（無形文化財）
- ・議会中継の導入
- ・コロナ対策交付金事業（定額給付金など・総額3億6300万）
- ・総合振興計画策定（改定版）
- ・錦江町ふるさと便開始
- （お中元、お歳暮配達無料）
- ・ふるさとチョイスアワード2020大賞受賞



錦江町長  
木場 一昭